

事業シート（概要説明書）

様式1号

① 事業名	文化財関係施設管理運営業務
② 細事業名	滝畑ふるさと文化財の森センター施設管理業務

総合計画体系	章	03元気創造都市	節	07市民文化
担当部・課	生涯学習部 ふるさと文化課		事業開始年度	平成19年度
根拠法令				

③ 事業内容 (手段・手法など)	①文化財建造物その他文化財の保存に必要な植物性資材(以下「植物性資材」という。)を活用するための技術的研修及び普及啓発活動に関する事業 ②植物性資材の安定供給及び保存育成に関する事業 ③地域の文化遺産の保護及び継承の必要性を啓発する事業 ④植物性資材、歴史、芸術、民俗等に関する資料の収集及び保存並びにそれらの調査研究に関する事業 ⑤体験学習及び野外活動に関する事業並びにその指導及び助言 ⑥研修宿泊施設を体験学習及び野外活動の用に供する事業 ⑦事業の情報提供								
④ 目的 (何のために)	文化遺産の保護に必要な植物性資材に関する技術的研修及び普及啓発活動を推進するとともに、豊かな自然の中で地域の資産を活かした体験学習の場を提供することにより、社会教育の振興を図る								
⑤ 対象及び人数 (誰・何を対象に)	市内外を問わず、あらゆる年代の人対象に、有料施設(研修宿泊施設)利用者は、年間約10,000人、無料施設(資料館)来館者は、年間約6,000人								
⑥ 現在の実施方法	職員が直接実施 (詳細: )								
⑦ コスト	平成23年度予算	直接経費(A)の内訳							
	直接経費(A)	20,209千円	嘱託員報酬 13,768千円 旅費 14千円 役務費 1,008千円 使用料及び賃借料 552千円 備品購入費 345千円 夏季繁忙期アルバイト賃金 1,069千円 需用費 5,430千円 委託料 12,810千円 原材料費 50千円						
	人件費(B) ※(C)+(E)	23,097千円	内訳	8,260千円	従事職員数(D) 1人				
	総コスト(A)+(B)	43,306千円	臨時職員他(嘱託・アルバイト)人件費(E)	14,837千円	従事職員数(F) 10人				
		財源内訳(収入)							
		国・府からの補助金等	0円	使用料・手数料	9357千円	一般財源(市債含む)	33949千円	その他	0千円
⑧ 対象事業の抽出の視点 (選考優先順位)	◎ 市民協働・指定管理・委託などのアウトソーシングを行う余地の比較的大きな事業 ◎ 市単独事業								

⑨ 目標 (目指すところ) ※より具体的に記入	①文化庁の提唱する「ふるさと文化財の森構想」の拠点機能としての役割を果たすとともに、植物性資材や文化財修理技術の保存・活用・育成をを通じて地域の文化遺産の保護及びその必要性の啓発並びに地域の活性化に資する ②平成25年度での指定管理者制度導入への条件整備 ③利用対象を市内外を問わず、様々なNPO、ボランティア団体、社会教育関係団体などにも拡大し、世代や活動内容を異にする様々な団体が交流できる、既存の枠組みにとらわれない施設とする ④子どもから大人までのすべての階層の利用者が活動し、交流して元気になる施設とする ⑤単なる参加・利用から、事業の企画運営までできる参画機能を持たせる。 ⑦利用者の体験活動をサポートするために、周辺の各施設とのネットワークを形成し、滝畑地区だけでなく、市域の自然、歴史、文化等の情報拠点かつ「奥河内」構想の岩湧山エリアの拠点施設とする				
⑩ 事業の現状	●岩湧山の茅場に続き、平成23年度において、千石谷市有林の文化財の森ゾーンが、文化庁から檜皮の「ふるさと文化財の森」として選定を受け、茅及び檜皮を継続的に植物性資材として檜皮を安定的に確保するとともに、茅及び檜皮にかかわる技術者を育成し、植物性資材や技能に関する普及啓発活動を実施している ●研修宿泊施設(旧青少年活動センター)については、平成22年度より従来の青少年を中心にした利用から、夏休み期間中を除き、すべての年代に人々が利用できる施設としている。				
⑪ 目標と現状の差 (課題) ⑨-⑩	●有料施設については、平成22年度からすべての世代の人に開放しているが、まだまだ認知度が低く、名称も含めて旧青少年活動センター当時の、利用対象が青少年団体を中心の施設というものから脱却されていない。 ●有料・無料施設とも駐車場スペースが少ないことと、施設直近のまで大型バスが入ってこれず、多人数の団体の利用・来館に支障をきたしていることが、利用者・来館者の拡大にいたらない一因。 ●周辺各施設とのネットワークを形成しているが、充分機能を果たせていない				
⑫ 解決策と論点 (⑪の課題の解決策と問題点)	市側の事前論点 【解決策1】 指定管理者制度の導入に関し、施設の本来の目的を確保するとともに、より効果的、効率的かつ施設の機能を最大限に発揮できる管理運営のあり方と活用方法を検討する。 【解決策2】 様々な団体との協働で、既存の枠組みにとらわれない事業展開を図る。	→	最終論点 ※ 事前概要説明会開催後に記入		
	【論点1】 施設使用料が有料・無料に分かれている、地域との関わりが深い、交通アクセスが不便であることや専門職員の確保が不可欠であることを充分考慮して、指定管理者制度導入の条件整備を行う必要がある。 【論点2】 河内長野ミュージックパークネット、大阪ミュージアム等を活用した情報発信を行い、企業との提携も含めた事業展開を行い、センターの認知度を高める必要がある。				

# 様式2号

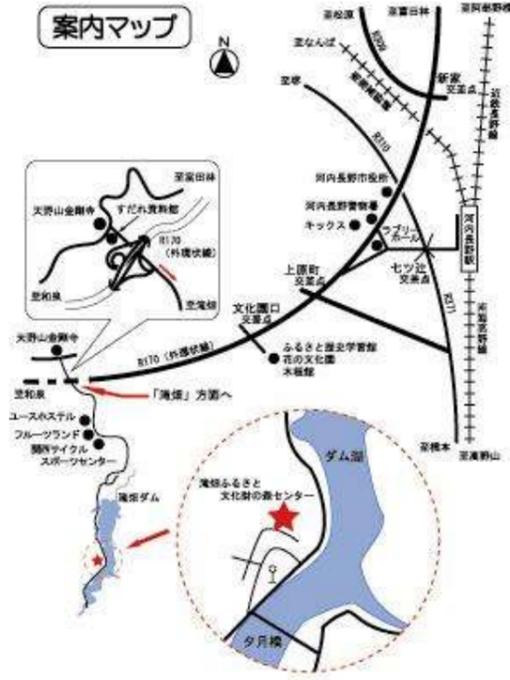
## ○ 滝畑ふるさと文化財の森センター

所在地 河内長野市滝畑483-3  
 開館年月日 平成22年4月1日（施設統合日）  
 開館時間 午前9時～午後5時  
 管理体制 センター長（ふるさと文化課主幹が兼任）常駐 1名  
 センター職員(非常勤) 学芸員 2名  
 その他 4名

### 【設置目的】

当センターは、平成22年4月1日に研修宿泊施設を中心とした青少年活動センターと資料館・民家棟の滝畑民俗資料館を統合整備したものです。

この施設は、文化遺産の保護に必要な植物性資材に関する技術的研修及び普及啓発活動を推進するとともに、豊かな自然の中で地域の資産を活かした体験学習の場を提供することにより、社会教育の振興を図ることを目的としています。



研修宿泊施設前景

資料館・民家棟前景

過去3年度の宿泊研修施設 利用団体種別

過去3年度の資料館 入館者数

		市内		市外		合計	
		団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数
こども会	H20	21	709	3	297	24	1,006
	H21	16	654	0	0	16	654
	H22	19	776	0	0	19	776
小・中学校	H20	6	313	19	648	25	961
	H21	9	583	20	636	29	1,219
	H22	6	393	26	908	32	1,301
高校・大学	H20	9	234	13	554	22	788
	H21	8	104	17	802	25	906
	H22	4	66	9	386	13	452
幼稚園・保育園	H20	10	383	9	542	19	925
	H21	9	297	14	806	23	1,103
	H22	10	396	16	857	26	1,253
青少年育成団体	H20	49	2,158	1	72	50	2,230
	H21	42	1,849	0	0	42	1,849
	H22	32	1,554	5	87	37	1,641
その他	H20	76	2,956	55	1,863	131	4,819
	H21	65	2,378	69	2,268	134	4,646
	H22	70	2,360	57	1,606	127	3,966
合計	H20	171	6,753	100	3,976	271	10,729
	H21	149	5,865	120	4,512	269	10,377
	H22	141	5,545	113	3,844	254	9,389

	性別	H20	H21	H22
小学生*	男	617	531	496
	女	662	492	438
中学生	男	116	125	127
	女	79	76	101
高校生	男	30	26	4
	女	15	18	6
大学生	男	14	4	26
	女	14	7	34
一般	男	2,461	2,544	1,942
	女	2,211	2,217	1,693
合計	男	3,368	3,230	2,595
	女	2,981	2,810	2,272
	計	6,219	6,040	4,867

\*は幼稚園児・保育園児を含みます。